

## 青少年のネット利用に関する保護者への グループインタビュー調査の一考察

千葉 直子† 関 良明† 橋元 良明‡

†日本電信電話(株) NTT セキュアプラットフォーム研究所  
180-8585 東京都武蔵野市緑町 3-9-11

‡東京大学大学院情報学環  
113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

**あらまし** 青少年がネットを主に利用する家庭および携帯電話などのネット接続機器を買い与えて使わせる保護者に着目し、家庭内の対策やルールの設定要因について探索する質的(定性的)な調査を実施した。小学生～高校生の子どもの持つ母親6グループ(36名)に対して実施したグループインタビュー調査の結果、家庭内のネット利用の対策やルールの有無は、保護者のリテラシより、教育方針や家庭内のコミュニケーション状況と関連していること等を明らかにした。

### A Study of Parent Focus Group Interviews about Children's Internet Usage

Naoko CHIBA† Yoshiaki SEKI† Yoshiaki HASHIMOTO‡

†NTT Secure Platform Laboratories, NTT Corporation  
3-9-11 Midori-cho, Musashino-shi, Tokyo 180-8585, JAPAN

‡The University of Tokyo Graduated School, Interfaculty Initiative in Information Studies  
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JAPAN

**Abstract** We conduct a study of domestic Internet usage rules and countermeasures for children. Six focus group interviews with 36 mothers of children who are students from elementary school to high school were carried out in order to analyze their opinions and rules about children's Internet use by computers or cellular phones. The results indicate that the domestic Internet usage rules and countermeasures for children are attributed to parent's educational policy and density of communication with children.

#### 1 はじめに

近年、青少年のインターネット利用は低年齢化が進み、インターネット接続端末も従来のパソコンや携帯電話だけでなく、タブレット端末やスマートフォンなど多種多様になってきている。青少年が利便性の高い機器を用いて、インターネットに接続し、世界を広げることは避けられない流れであり、それによるメリットも大きい。しかしながら、インター

ネット上の膨大な情報のなかには、危険な情報、青少年に適さない情報も多々あり、また簡単で便利なコミュニケーションが一転、トラブルに発展することも多い。

しかしながら、筆者らが2009年2～3月に実施した東京23区での500名の訪問留置調査[1]では、子どもなどの家族が有害情報を見ってしまうことについて、不安を感じている割合が74%と高い一方で、フィルタリングサービスの導入割合は非常

に低いことが明らかになった。フィルタリングサービスだけが有害情報の閲覧対策ではないが、この結果は不安があっても対策に結びつかない可能性を示唆している。

そこで、青少年がネットを主に利用する家庭および携帯電話などのネット接続機器を買い与えて使わせる保護者に着目し、対策やルールの設定要因や障壁等について探索することとした。本稿では、家庭内での青少年のネット利用に関する保護者の意識、対策やルールの状況、指導時の問題点等について、小学生～高校生の子どもの持つ母親36名に対して実施したグループインタビュー調査の結果を報告する。

## 2 関連調査

内閣府の「平成23年度青少年のインターネット利用環境実態調査」[2]には、10～17歳までの青少年およびその保護者に対する、携帯電話やパソコンからの青少年のインターネット利用状況やフィルタリングの利用率、家庭内のルール、保護者が心配すること等についての調査結果が示されている。また、文部科学省の「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」[3]にも、小学6年生、中学2年生、高校2年生とその保護者への郵送調査から、子どもの携帯電話の利用状況やフィルタリングの加入有無、携帯電話の心配なこと、家庭内ルール等の調査結果が示されている。

これらの調査の内容は、筆者らの調査研究テーマと非常に近く、[2]の調査結果を見れば、子どもの携帯電話利用に関するルールとして40.5%の保護者が「料金の上限を決めている」ことがわかり、子どもがインターネットを使うことに関して心配なこととして46.1%の保護者が「名前や住所を安易に書き込んでしまうこと」を挙げていることがわかる。このような量的調査で得られたデータは調査手法にもよるが、一般的には統計的な裏付けのある結果として理解しやすい数値を与えてくれる。しかしながら、その一方で、回答選択肢にない部分や、各回答の背景にある個々人の理由や思いを読み解くことはできない。

青少年のネット利用に関しては、保護者のさまざまな価値観や教育方針、考え方があってと思われるため、対策は必ずしも一律ではないと筆者らは考えている。今回、子どものネット利用に対する保護者の思いをより深く聞きとる質的(定性的)調査を実施することにより、各家庭の状況の背景部分を探索した。このような質的調査の結果と、統計的な量的調査の結果を組み合わせることにより、実態をより正確に把握できると考えている。

## 3 調査の概要

### 3.1 調査手法

本調査で採用したグループインタビューとは、ある特定のトピックについて選ばれた複数の個人によって行われる形式ばらない議論のことで、探索的な研究に適する手法とされている[4]。ある発言者の発言が、さらなる発言へと連鎖的反応を引き起こしたり、参加者はすべての質問に答えるよう要求されるわけではないので、自発的な反応が得られる等のメリットがあるとされている[4]。

### 3.2 対象者の選定

インタビュー対象者は、子どものネット利用が増えてくると考えられる小学校4年生から、高校生までの子どもを持つ母親とした。保護者のなかでも母親に限定したのは、一般的に日常での子どもとの関わりが大きく、より具体的な思いが聞き取れると考えたからである。また、子どもにインターネットを使わせるにあたって、全く何の心配もしていないという人が集まっても、議論にならないと考えたため、対象者選定時に「お子さんが、インターネット上の有害な情報(例えば、誹謗中傷、出会いの勧誘、薬物の販売、ポルノ、暴力やグロテスクな画像や動画など)に接触することについて、どのようにお考えですか?」という質問をし、「とても心配」もしくは「やや心配」と回答した人を対象とした。インタビュー対象者は、調査会社のネット登録モニターから、オンラインアンケートに回答してもらい選定した。

表1 グループの構成と参加者プロフィール

グループ	参加者ID	携帯・パソコン 利用 リテラシ	子どもの 属性		子どもの携帯電話 利用状況		子どものパソコン等 利用状況		
			学年	性別	利用端末	フィルタ リング有無	パソコン	フィルタ リング有無	その他 ネット接 続機器
ア (小学生・ 対策あり)	ア-1	高	小4	男	子ども向けの携帯電話	-	親と共用	×	
	ア-2	高	小6	男	普通の携帯電話	○	親と共用	○	
	ア-3	低	小6	男	未所持	-	親と共用	○	
	ア-4	高	小6	女	普通の携帯電話	○	親と共用	×	
	ア-5	高	小4	女	未所持	-	親と共用	○	
	ア-6	低	小5	女	普通の携帯電話	○	未利用	-	
イ (小学生・ 対策なし)	イ-1	低	小6	男	未所持	-	親と共用	×	
	イ-2	高	小5	男	普通の携帯電話	×	親と共用	×	
	イ-3	低	小6	男	未所持	-	親と共用	×	
	イ-4	高	小5	女	普通の携帯電話	×	親と共用	×	
	イ-5	高	小4	女	未所持	-	親と共用	×	
	イ-6	低	小6	女	普通の携帯電話	不明	親と共用	×	
ウ (中学生・ 対策あり)	ウ-1	高	中3	男	スマートフォン	×	親と共用	×	
	ウ-2	高	中3	男	未所持	-	親と共用	○	
	ウ-3	高	中1	男	子ども向けの携帯電話	-	子ども専用	○	iPod Touch
	ウ-4	低	中3	女	未所持	-	親と共用	○	
	ウ-5	低	中2	女	普通の携帯電話	○	親と共用	○	
	ウ-6	低	中2	女	普通の携帯電話	○	親と共用	×	
エ (中学生・ 対策なし)	エ-1	低	中2	男	普通の携帯電話	不明	親と共用	×	iPod Touch
	エ-2	低	中2	男	スマートフォン	×	子ども専用	×	
	エ-3	高	中2	男	未所持	-	親と共用	×	
	エ-4	低	中3	男	未所持	-	親と共用	×	
	エ-5	低	中3	女	未所持	-	親と共用	×	
	エ-6	高	中2	女	スマートフォン	×	子ども専用	×	iPad, iPod Touch
オ (高校生・ 対策あり)	オ-1	低	高1	男	普通の携帯電話	○	親と共用	不明	
	オ-2	高	高3	男	スマートフォン	○	親と共用	○	
	オ-3	高	高2	男	普通の携帯電話	○	親と共用	×	
	オ-4	高	高1	女	普通の携帯電話	○	子ども専用	×	iPad
	オ-5	低	高2	女	普通の携帯電話	○	親と共用	×	iPod Touch
	オ-6	高	高2	女	普通の携帯電話	○	子ども専用	○	
カ (高校生・ 対策なし)	カ-1	低	高3	男	普通の携帯電話	不明	子ども専用	×	
	カ-2	低	高3	男	普通の携帯電話	×	親と共用	×	
	カ-3	高	高3	男	普通の携帯電話	×	子ども専用	×	PSP
	カ-4	高	高3	女	普通の携帯電話	×	親と共用	不明	iPod Touch
	カ-5	低	高2	女	普通の携帯電話	×	親と共用	不明	
	カ-6	高	高2	女	普通の携帯電話	×	親と共用	×	

### 3.3 グループの構成

子どもの年齢が近い方が類似した問題について話が活発になると考え、小学校4~6年生/中学生/高校生の3つに分け、そのなかで子どものネット利用に対策をしている(フィルタリング有り、もしくは親と常に一緒に利用していると回答した人)か否かで、さらに各グループを2つ分け、1グループ6名の計6つのグループを構成した。グループ

内の参加者は、子どもの性別、保護者のネットリテラシが偏らないよう考慮した。保護者のリテラシは、ネットの様々なサービスの利用状況、機器の設定や管理の実施度合、トラブル発生時の対処の仕方を質問した結果で判定した。グループ構成および参加者のプロフィールは表1に示す。

### 3.4 グループインタビューの実施

グループインタビューは、2012年2月1日(水)~3日(金)に都内の調査会社のインタビュールームにて行った。所要時間は1グループ2時間で、事前に作成したインタビューフローをもとに、司会者から一方的に質問をするだけでなく、その話題に関する参加者同士の自由なやりとりも促す形で進めた。

インタビューフローの概略を以下に示す。

- 1) 自己紹介(家族構成や職業など)
- 2) 自宅のパソコンの場所や子どもの利用場面や利用内容
- 3) 家族の携帯電話やスマートフォンの利用状況、子どもの所有経緯や利用歴
- 4) パソコンやスマートフォンを使わせる際に子どもと約束していること、ルール、注意すること
- 5) 子どもがネットを使うにあたって、気になること(心配、懸念、不安)
- 6) ネットの有害情報に対する意識(下記の作業後にディスカッション)

ポルノ、暴力、死体やグロテスクな画像、薬物・ドラッグの入手方法、売春(援助交際)の勧誘、家出の手引き、自殺の誘引や方法の紹介、違法アルバイト(口座開設・携帯電話契約等)の勧誘、ネットいじめ・誹謗中傷、悪意のある大人による誘い出し、詐欺・不正請求の計11個の項目カードを下記の2軸でマッピング。

【縦軸】自分の子どもに起こり得る可能性として身近に感じる⇔感じない

【横軸】対策の必要性を強く感じる⇔感じない

- 7) 子どものネット利用に関して家庭で行っている対策(フィルタリング等)やその見直し状況
- 8) ISP やサービス提供者、警察、学校、国などに対策してほしいこと

## 4 調査の結果と考察

### 4.1 ネット利用時の心配や懸念

子どものネット利用時の心配や懸念について、小学生の子どもを持つグループでは、「目が悪くなる」「アダルトサイトを見てしまいそう」「携帯やパソコンばかりやってしまいそう」「メール利用時にトラブルになる」「書き込みなどでトラブルになりそう」という意見が聞かれた。中学生グループでは、「宿題など何でも安易にパソコンで調べる」「知らない人と実際に会ってしまいそう」「アダルトサイトや残酷な画像等を見てしまいそう」「目が悪くなる」「ネットに振り回されそう」、高校生グループでは「友達とのコミュニケーショントラブル」「いじめや中傷」「SNS などでの個人情報の露出や「友達」のつながりが危ない」「携帯をダラダラやり続ける」「オンラインゲーム依存」といった意見が聞かれた。

次に、ネット上の様々な有害情報が、子どもにとってどの程度身近な危険と感じ、また対策の必要性を感じているのかを可視化するため、前項 3.4 のインタビューフロー(6)に記述の作業をしてもらい、それを見ながら自分の子どもについての危険性を述べてもらった。小～高校生グループ共通で、ポルノ、暴力、死体やグロテスクな画像といった情報に対して、見てほしくないという意見が多かったが、中高生グループの男子の子の親からは、ポルノは通る道だからある程度見ても仕方がないという意見も聞かれた。薬物、家出、自殺サイトについては、どの世代もあまり対策の必要性を感じていないようであった。詐欺・勧誘・誘い出しについては言葉巧みに言われたら、子どもは判断できないのではないかという意見が共通的に聞かれた。

内閣府の調査[2]では、保護者が、子どもがインターネットを使うことに関して心配なことについて、上位から順に「名前や住所を安易に書き込んでしまうこと」(46.1%)、「暴力的な内容、性的な内容、反社会的な内容を含むサイトにアクセスすること」(41.1%)、「目を悪くするなど健康を害すること」(38.2%)、「インターネットからの情報を鵜呑みにすること」(37.4%)、「インターネットを利用する時間が長時間になること」(37.3%)等と続く一方、「心

配なことではない」とも 14.0%という統計結果が出ている。ただ、保護者がこれらの心配をする、もしくは心配しない背景や理由については言及されていない。今回のグループインタビューでも既存調査と類似した内容が多数出てきたが、このような心配や懸念に関する発言から、心配する理由を分類した結果を表 2 に示す。

表 2 心配する理由

分類	発言の具体例
<b>自分(母親自身)の経験</b>	
自分に起きたことは子どもにも起こらうと心配。	子どももまたに2ちゃんねる見るんですけど、(中略)それで、無業マニアが撮った画像を2ちゃんねるに載せて、今、ここでこういう事件・事故がありましたっていうのを載せて、普通に見れるんですけど、で、そこまたどり着いたんですけど、怖くてもそこから聞けなかったんで、たぶん、子どもももしそれを知っちゃうと、開いたらやうじやないかな。(ウ-2)
子どもに経験	こないだ、ポルノ的な画像をたぶん見てらぬ、気持ち悪かったってすごい拒否反応を示して、ちょっとそれがAKBの画像をたぶん自分で見たかったのを、一生懸命打倒して、その打ったのを開いたみたいで、あ、残るじゃないですか、腹感が、それが残っちゃうと、何回やっても出てくるっていうの恐怖心が出て、そこから、やっぱり行っちゃいますね、なんか、やわいりキャラクタートラップが出てクリックすると、やっぱり、持って行きますよ、カーソルをそこに。(ウ-2)
伝聞・他者の経験	メールトラブルっていうのが、あの、私の経の時にごく経験して、すごかったんで、あのやっぱりちょっと言いかた、取り方の違いなんですよ、たぶん、そのつとも別なかもケンカになっちゃうと揉めちゃうみたいで、すぐそういうのが嫌だったんで、今のうちは子どもが送るメールは私にまず内容を見てから、で、ちょっと言葉悪いけどこうしたらいいんじゃないかっていうアドバイスをしながらのメールなんで。(ア-5)
子どもの性格や嗜好	結構、無料登録とか、そういうのになさるにすぐ登録して良い? とか子どもも聞いたりするんで、そういうの今のこと登録する前に聞いてくれるんで、私どもわかんないかなら、これやめといた方が良くよって言うんですけど、最近では1か月無料レンタル、CDができてますっていうのがあって、あれも登録するのに、やっぱりクレジットカード入力したりかするんで、ちょっとカード番号入力するのは、ちょっとやめとこうなって、無料に弱いタイプ。(エ-1)
判断力に乏しい	YouTubeで、色々な大人の人が画像を出しているのを見て、もう、その中で好きな人がいると、なんともかよって良いなか、その影響がちょっと怖いんですよ、嘘を言ってるかもしれないけどやっぱり信じてるんで、そういう嘘と本当は判断出来ない、丸々本当と思っちゃうのがちょっと怖いんですね。(ア-3)
影響を受けやすい	薬物とか友達か「面白いサイト載ってたよ」とか言って言ったら、家帰って親が見ない間に、見る可能性はあるんじゃないかなって思っただけで、話題に上がって「見てみよっ」って思っただけで思っただけじゃないですよ、感受性が強くて、もう、私達くらいになれば、いほどのこと見ても、あら、って捨てられますよ、若い子で、やっぱり強く響くんですよ、ものすごい、例えば何か足踏めさるような事理なんていうのは、ずーっとたぶん深く傷つくと思うんで、それは私も見てほしくないですね、あの、他人事として片づけられちゃうんですよ、若い子で、泣いてるし、なんか夢に出るとか言ってるので、やっぱり私もできるだけ目に触れてほしくない。(カ-6)
情報過多	有害情報っていう意味で行くと、逆にですね、一般の人がそれが良いか悪いかと思っような情報が今ネットですぐ出るんですよ、例えば学校でも言うかと思うんですけど、受験の時に成績は、いってん何倍かがでがってんとして評価されて、それで判断してるとか、それを知ってるわけですよ、子どもたち全員、(中略)そういうのが私には有害だと感じてるんですけど、子どもたちに知らせる必要のない情報を、情報がちょっと多すぎて、あまり便利なのも、子どもが育っていく過程ではよくないかな、悩んで進んだ方が悪い部分が解決されちゃうんで、で、親の知らないことも、例えば自分で調べられちゃうし、威嚇とかもやっぱり出てきますよ、先に知ってたとか。(ウ-1)
他のことがおそろそかになる	だからどこかパソコンをやらないと、携帯も、やっぱりその大学受験も2年後にあるから、言わないとずつとやっちゃうから、それだけでですね、30分だったら30分とか、1時間とか、決めたあとは勉強して、そういう風にして、あとは開けっ放しにしないで、そういう風に時間の制限だけですかね、そうしないとうして、ついやっちゃうんですよ。(オ-4)

表 2 から、子どものネット利用に関する母親の心配は、自分・子ども・身近な人のネット上のネガティブな経験や、子どもの性格や嗜好、情報化社会のマイナス面、勉強などの時間が削られることのように、子どもだけでなく大人にも共通して懸念されるような理由と、判断力の乏しさや影響の受けや

すさのように“まだ子どもだから”という理由が存在していることがわかった。

一方で、子どものネット利用に関して、あまり心配していない理由を分類した結果を表3に示す。

表3 心配しない理由

分類	発言の具体例
<b>うちの子にはまだ遠い話</b>	
年齢や利用状況から現実的ではない。	うちの子どもで、(アダルトサイト)を見てわかんないと思うんですよ。ポルノ系のものを「なんだこれ!」みたいなのを感じたと思うんで、あんまり心配はしてないです。(ア-3) (実物とか)うちの子まだローマ字も怪しいくらいで、検索にまだ自分で言葉も入れない感じなんで、まったく行くようには思えない(イ-5) (家出サイトについて)中学生くらいだとまだ、もうちょっと高校生くらいになったら可能性もあるかもしれないですけど、年代にも寄るのかなって。そんなにまだ一般の人とやり取りをするようなところまでいってないんで、そういうことではない(ウ-6)
<b>子どもとコミュニケーションが取れている</b>	
会話等で、子どもの状況は把握できている。	割と娘とはそういうわけでコミュニケーション取れているので、今、娘がどうい状態にあるかっていうのは私としては一応把握してるつもりなんです。なので、その、気づいたときはほとんどないことになってたってことはないだろうと思います。(カ-6)
<b>うちの子は興味がない</b>	
興味範疇外だからアクセスしないだろう。	まったく見ないって言うか、興味ないって言うか、見たくもないですし、たぶん見ないですね。本人が、興味がないって言うのは、やっぱりその家庭に寄り付かなくて、その家庭が荒れてる家庭だと、親がそういうの例えばやったりすると、知らないうちに子どももそういうの知っちゃうやないですか。ないとなると、たぶんそういうこの話題自体が、たぶん興味ないで、調べることないと思うんですよ、子ども自体が。(オ-4)
<b>うちの子には善悪の区別がある</b>	
悪いことは理解しているはず。	小さい時から悪いものは悪いって教えて、それをちゃんと頭の中に入れてるので、例えばタバコは吸っちゃダメとか、その、こないだも薬物のニュースがあったときに、こういうことしたんだよっていうのを子どもから喋ってくるので、すぐこれは悪いっていうのがちゃんと区別が付いているんで、多分それを見て自分がやってみたいとか興味を持って言うよりも悪いっていう認識の方が強いと思う。(イ-2)
<b>うちの子はネットに詳しい</b>	
ネットの危険性は十分理解している。	詐欺とかいろいろありますけど、もうやっぱりこれだけパソコン詳しいので、何が良く何が悪いのかわかってもう大体把握できているんじゃないかと思えます。さほど心配はしてないです。(ウ-2)
<b>学校が対策してくれている</b>	
学校が啓発やパトロールをしているから安心。	うちは電車に乗ってどこにも出かけやう子なんですけども、学校がやっぱり、うち3年生なので、制服での立ち寄りなんかもう厳禁だし。携帯電話なんかも、通学中は基本使っちゃいけないって、先生が結構あちこち見てるんですね。学校も、写真も、もう毎日YouTubeとFacebookは先生が見てるんですね。(それで安心してるといいます)。(ウ-5)
<b>身近で話を聞かない</b>	
周囲で、危険な話を聞かない。	周りもそういう世界じゃないし、本人も平和に過ごしてんで、万が一、例えば、友達に薬物とかの持ちてるって言うても自分には拒否できるんじゃないかなって信じてはいます。(ウ-4)

ネット利用全般に関して全く何も心配していないという意見はほとんどなく、“薬物、自殺、家出、売春のサイト”等の具体的な事例に限った話において、子どもの年齢、日頃の会話、周囲の状況から現実的な話ではないこと、興味対象外であること、ネットのリテラシや分別があること、学校が対策していることを理由に心配していないという意見が聞かれた。また、現在あまり心配していないという人でも、子どもが成長したら、スマートフォンになったら、新手のリスクが出てきたら等、近い将来を予測すると心配という意見も多く上がった。

心配や懸念の有無や内容、その背景にある理由について、保護者のネット利用のリテラシの高低はあまり関係がないように見えた。

## 4.2 家庭内のルールや対策

携帯電話やパソコンを利用するときの、家庭内のルールや日頃注意していることについて聞いた結果を表4に示す。

表4 家庭内のルール・注意事項

分類	発言の具体例
<b>時間を決めて使う</b>	
時間制限と、夜何時までという約束がある。	基本、も8時半遅くても8時半、9時まではさせないって、今まで子供だから言うこと聞いてるんですけど、まあそういうのは決めてますけどね(ウ-3) 必ず守るのは、だからだろとにかくパソコンをやらなくとか、携帯も、やっぱりその大学受験も2年後にあるから、言わないとずっとやっちゃうから、それだけでですね、30分したら30分、1時間とか決めたらあとは勉強して。(オ-4)
<b>パソコンを使うときは親と一緒に使う</b>	
パスワードでの制限と、口約束がある。(小学生のみ)	どこでも見て進んでいくと、アダルトサイトでも簡単に飛べちゃうし、あの、なんでもたぶん行っちゃやと思うんで、使うときは、もう一緒にいる約束してる。(ア-4) 勝手に、動画とか、ま、とにかく、あの、パソコン使うときは、必ず私に声をかけて、で、いないとこはやっぱりダメ。(イ-1)
<b>携帯でネットにつながらない</b>	
未契約の場合と、口約束がある。(小中学生)	1回小さい時に、つなぎっぱなしなんかにして何万円かすごい請求来ちゃって、バケ放題とかじゃなかったんで、それからもう絶対つなげちゃダメだったことで、下の子はそれもう全然ついてない。(ウ-6)
<b>あちこちクリックしない</b>	
パナーやURL、メール等での注意。	いろんなサイトとかには手を出さなく、なんか良さそうなゲームのサイトの「サマー」あつてもクリックして違うところに行っちゃうとかあるからそれも気をつけなさいと、そういうことは言ってますね。(エ-5)
<b>登録するものは利用禁止/するときは親の許可を取る</b>	
無料で個人情報を入れるから制限。	登録とかそういうのはしないし、必要がないと私も主人もそういう考えなので、中学生でどこかに登録してなんかするっていうのはまったく学校には必要ないって思ってるんで。(ウ-3) 娘は自分でアップしたりするんで、あの、アカウントっていうんですけど、パスワードとかそういうの取るときには、ちゃんと全部言ってる。(エ-5)
<b>有料のものは利用禁止/するときは親の許可を取る</b>	
禁止、親への申告、おこしいの範囲などの約束。	うちはもう有料のものはなかったら、即断も解約するよって言うてるんで、(スマホの)アプリなんかも無料のしか取らない。一応、毎月やっぱり明細はチェックしてる。(オ-2) うちは、有料サイトだけは行かないでくれている、それだけですね。請求がわからないし、どうなのかな、悪徳商法みたいなのにひっかかるかわからないんで、お金がゆかるとか、18歳未満は禁止っていうことには行かないでねって、それだけですね。(カ-1)
<b>履歴は消さない</b>	
ツールではなく口約束。	履歴は全部消しちゃいけないっていう決まりにしてるんで、いつ見られても困らないように。一応、私たちの保護下でお金払ってやってもらってる間は、私たちのものだから見られても当然だよねってことは納得してんで。(ウ-1)
<b>個人情報を入れない</b>	
SNSだけでなく、サイト利用時全般	(子どもが書いているブログ)うちの子っていうのがわからないように、こういうことのもなんですけど、実名とか家で飼っているペットとかも絶対載せないでねって注意はしてます(ウ-4)
<b>書き込む言葉に気を付ける</b>	
メールやチャット、SNSなど。	ほんとに他の中学校とかからも来てるから、そういう子には気を付けて、ほんとに言葉はやっぱりメールと一緒に感情が伝わって通じやすくなるので、気を付けるようにはしてます(ウ-2) もちろん誹謗中傷とか、そういう、いわゆる学校の授業でもやっちゃうような、ああいうことは絶対ダメって言ってます。(エ-5)
<b>ダウンロードコンテンツの2次利用禁止</b>	
著作権保護の約束。	YouTubeから落すとすのどは禁止してます;うちは、一応、それはダメって言って、YouTubeでその場で見る分には良いけど、それを落として、見ることに、2次利用するのはダメってことは一応、うちは決めます。(ウ-1)
<b>メールアドレスの交換は親の許可を取る</b>	
メールアドレスの勝手な交換禁止。(小学生のみ)	他のお友達うちの娘の娘を教えたしまったりかっていうのもあったんですね。「教えてないのに来たー」とか言って言うから、メールを交換するときは必ずお家の人にお互いに、親に確認を取ってからにして、当日、交換しようとする交換は絶対しないこと。(ア-6)
<b>メールの利用禁止/制限/するときは親の許可を取る</b>	
子どもや身近な人のメールアドレス経験者のルール(小中学生)	メールも一応確認を取ってやろって言って、で、今はゆるくなってきちゃったんですけど、一応メールの内容だけは私に確認してやってますね。(ア-4) そういうの(コミュニケーション)がなかったら、もう絶対するなと、もうメールはと言って、登録してあったのも全部消去させて、私の前で、全部消去させてアドレスは一切するなど。縁切る感じにしていう感じで(ア-5)

小～高校生に共通していたのは時間を決めて使うことであり、小学生のうちには親と一緒に使うことや、携帯のネットやメール利用を禁止している家庭もあった。学年が上がるに連れ、子どもが SNS やオンラインゲーム等を利用する割合が増えるた

め、個人情報を入力しないことや登録時には許可を取ること等の、より具体的な利用ルールが決められていくようである。その一方で、ネット利用に関して特にルールは決めていないという意見もあり、それはネット特有の話ではなく、人としての常識やしつけ、日頃からのコミュニケーションが重要という理由や、親があえて言わなくても子どもの方がわかっているという理由であった。既存調査[2][3]でも、一部共通するものもあったが、今回より具体的なルールや、ルールを決めない理由について明らかにすることができた。

次に、家庭内で行っている対策については、「フィルタリングをかける」「利用中の画面を見る」「ブラウザの閲覧履歴やメールの送受信履歴をチェックする」「携帯の明細書をチェックする」という意見が出た。また明に「対策」という位置づけでは出てこなかったが、日頃から子どもと話したり、何をしているかを詳しく聞いたりすることで利用状況を把握しているという意見もあった。

これらのルールや対策に関する発言で印象的であったのが、親が事前にルールや対策を決めるよりも、子どもが1度痛い目に合うことが最も効果的な学習方法であるという意見であった。携帯電話の使い過ぎやアダルトサイトの閲覧で数万円の請求が来て、それをお小遣いから分割で支払ったり、オンラインゲームのチャット相手にパスワードを教えてしまって貯めていたアイテムを取られたりという苦い経験を通して、子ども自身がその後気を付けるようになるという話は中高生グループで度々聞かれた。小中学生のグループの中には、高い料金の請求やメール利用時のトラブル等の子どもの失敗により、その後の利用を一切禁止したという事例も複数出たが、そのような失敗経験こそが、子どもが自発的に気を付けるようになるチャンスとも言える。

また、発言の中で「ネットに没頭するとろくなことがない」「ネットは暗い世界」といったようにネットに対する保護者自身のネガティブな考え方が垣間見られる家庭では、子どもの利用にきつめの制限を設けている傾向が見られた。ネガティブな見方は、リテラシの高低に寄らず、数名から聞かれた。

### 4.3 フィルタリングの状況

前項の対策のなかで出てきたフィルタリングについては、国も青少年のネット利用環境整備の柱として普及に力を入れている。国の調査[2][3]では、保護者に啓発や学習経験がある場合フィルタリング利用率が高いという統計結果を示し、フィルタリング普及のために保護者へ啓発を促すという姿勢を取っているように見える。このフィルタリングについて、各グループで詳しく話を聞いた。

子どもの利用するパソコンや携帯にフィルタリングをかけたきっかけや理由について分類した結果を表5に示す。携帯は、購入や買換え時に店員に勧められたという意見が多かったが、夫婦間での話し合いや知り合いからの推奨で自発的にかけたり、学校の規則でかけないと持たせられないからという意見もあった。パソコンは、かけた方が良く読んだことがきっかけになる人が多かった。

表5 フィルタリングをかけたきっかけ・理由

端末	理由の分類	発言の具体例
携帯電話	購入時に店員に勧められた	なんか任せっきり、携帯会社に、なんかこれが高校生向けのフィルターですって、最初契約するときに、基本掛かることになってますよね、外さなければ、「じゃ、お願いします」って。(オ-5)
	知り合いに勧められた	保育園時代のお母さんたちと結構、年に何回か会うケースがあって、息子の同級生の子もいれば、そのお兄ちゃんお姉ちゃんがいるような人にも会ったりして、そこにいる情報が入ってきて「フィルターはやっぱりやっておいた方が最低限良いよ」って、(何のためにやるの?)やっぱ勝手に懸けられて、その請求もすごい事になっちゃやし、興味持ったらやっぱりどんどん聞いてっちゃうよって、あの、「大丈夫だと思ってるのは親だけだから」って言われて、あ、そうなんだあって、ちょっと自信ないなあって、で、すみません、フィルターしたいんですけど。(ア-1)
	加入しないと学校に持たせられない	最初、契約する時に、あの、フィルター、高校生用のやつ、もう最初からかけてって言って、それじゃないと学校に持たせられないから、出さなきゃいけないからって言って。(オ-4)
	かけた方が安全	キッズケータイだと可変らし過ぎちゃうんで、普通のが欲しいって言って、それでやっぱり買った時につけられる機能でフィルターかけて、たぶん、やり出したらいじるだろうなって主人と話してたんで、主人が一緒に行って、買った時に娘に主人が説明して、それでもうその場で。(ア-6)
パソコン	子どものいる家はかけようと思った	子どものいるうちはかけましよう的な何かで読んで、あ、そういうものなのねって、しただけです。(ア-2)
	購入時にかけないと危ないと読んだ	なんかパソコン買った時に「使うまでにこういう設定をしないと、あなたのパソコンは丸裸です」みたいなことを書いてあったから、その通りに、あのウイルスの毎月私用のしてるし、無料のじゃなくて。(オ-6)
	一緒に使う夫にも利用してほしい	あと、どっかっていうと主人に要なものは見られたくないっていうのが、...なんか普通なもの見たのが、消し方がわからなかったらしく、私が開けたとたん変なものが出たことがあって、別に1人で見てる分には良いんだけど、私が開けたときに残ってことは勘弁してほしいと思ってるんで、どっかって言ったら主人向け(笑)。(ア-2)

次に、フィルタリングをかけていない理由について分類した結果を表6に示す。既存調査[2]に表れていない意見としては、自分で情報を取捨選択できる判断力をつけてほしいからあえてかけないという意見や、アクセスできないようにすることでかえって子どもの興味をひいてしまうのではないかとという意見もあった。また、現在は親と一緒に使っているから必要ないという人や、よくわからないと

いう人も、子どもが1人でネットを使うようになったら導入を検討すると述べていた。

表6 フィルタリングをかけない理由

理由の分類	発言の具体例
自分で判断してほしい	うちはフィルタリングはしないです。自分で選ばせたいので、基本的にネットがどうこうより、普段の生活でやっていたこと、悪いことの判断を教えて、その関連で自分でもちゃんと考えてほしいんで、何か見たからって何って言うのはあんまり考えてないんです。あの、世の中にあるものは目に入って仕方ないって思ってるんで、ただ入ってきたものをどう処理するかとか、逆にそっちかな。(ウ-1)
親の目が届いているから不必要	ローマ字入力っていうのがまだまだできないんで、お母さんこれどうやって入れるの？っていうくらいはまだそういうレベルなんで、あ、何見ようとしてんのかなっていうのを見て聞いて、それダメとか、まだ目が届いてるから。(ア-1)
防止するとかえって興味を持つ	最初からそういう風に防止しちゃうと、かえってそこに行きたがるんじゃないかかと思いましたが、だから防止しないで、最初に説明はしてっていう風な感じで、あとは彼がどういう風にするのかってのから、で、特に今とこるないで。(エ-4)
パソコンと一緒に使う親が不便	(パソコンのフィルタリングについて) 融通が効かないっていうのも知ってたんで、なんでもかんでもキーワードこれはダメってしちゃうと、親もホントそれを見らんなくなるのが面倒臭いなぁって言うのもあって。(エ-3)
どのようなものかわからない	なんか、フィルタリング？とかってのをやった方がいいのかなあ〜って思うくらいで、それがどの程度見れなくなっちゃうのか、とか普通に使えなくなっちゃうのかとか全然わかっていないんで、対策してないけど、娘が1人で使うようになったら、しなくちゃなあって思いますね。(イ-4)

表7 フィルタリングを解除または緩和した理由

理由の分類	発言の具体例
必要なサイトが見られないと子どもに言われた	うちも最初は一番きついのにしてたんで、結構やっぱり接続出来ないで、それはもう母のやりなさいってうちもしてたんですけども、さすがにスマホにも替わるときに、「ミクシィも出来ないんだよって言われて、で、そういう風に具体的に出来るかと、そうか、ミクシィもできないのはつらいわなって思って、高校生にリンクアップさせたんですけど。ほんやりたったらぶん許さなかったと思うんですけど、一応具体的に言ってきたので、その後からグーリーとかかいてきたのが、ちょっと、えって思ったんですけど。(オ-2)
パソコン買い換え時に入れ直すのが面倒	小学校1年とか2年のときは入れてたんですけど、ほら、パソコンも買い替えるじゃないですか、そうすると、めんどくさい、もういややかってなって。(エ-6)
パソコンと一緒に使う親が不便	フィルタの話ですけど、当時の話でやっぱりかかとホントにつながらないんで、すよ。ケータイもそうだし、パソコンについてもそうで、一回やったに私が外したくらい。オークションもできなくなって。(カ-6)

使用中でフィルタリングを解除もしくはレベルを緩和した理由を分類した結果を表7に示す。既存調査[2]でも、解除理由として「子どもに言われた」「家族が不便」は存在していたが、本調査では親の不便に加えて、パソコン買い換え時の入れ替えの面倒さという、より具体的な意見も上がった。また、現在高校生の子どもが小さいときにかけてようとしたら、当時のフィルタリングは遮断されるサイトがあまりにも多すぎて実用に適さなかったという意見や、子どもからミクシィ、Twitter、FacebookなどのSNSができないと言われて外したという意見が複数聞かれた。これについては、低リテラシの親が子供の言いなりで外したという構図ばかりでなく、子どもとの話し合いで危険性について伝えながら解除をしたという事例が見て取れた。ただ、携帯電話会社の提供するフィルタリングサービスでは、初期設定時に閲覧不可能なサイトを、個別に閲覧可能にできるカスタマイズ機能が2009年

頃から利用可能となっているものの、実際にはまだ全く認知されていないという印象を受けた。

次に、保護者がフィルタリングという対策をどのようにとらえているのかを探った。既存調査[2]では、フィルタリングの印象を子どもには聞いているものの、実際に導入の判断をする保護者には聞いていない。本調査で得られたフィルタリングに対する母親の思いを分類した結果を表8に示す。漠然とした安心感・不信感とともに、実際に利用している中で出てきた不信感や、抜け道があることを懸念する意見が聞かれた。経験に基づく不信以外は、子どものフィルタリング利用有無に関わらず出てきた意見である。また、フィルタリングの利用有無や印象の内容は、子どもの年齢や性別、親のリテラシに依存していなかった。

表8 フィルタリングに対する思い

分類	発言の具体例
期待・安心感	
フィルタリングがあれば大丈夫。	携帯もフィルタリングはかけてあるんで、その点で心配はないですね。(ウ-3) だからその有害な情報、外からの情報でまだ刺激を受ける年頃であれば、その年齢に合っていないものを排除してくれるのがあって信じて。(オ-1)
経験に基づく不信	
実際の経験から、かけていても安心できない。	ひちゃんねるは見れませんが、もう暴力が出てますね。で、ネットバンキングはもう完全に、金銭のやりとりは出来ませんって完全に出来ないし、だけYouTubeは別に見れちゃうから、YouTubeの下世話なものは見えるわけですよ。だから何をどこまで安心して良いのか、ねえ、分からないから。(ア-2) (フィルタリングしているのに子どもがサザエさんの残像アニメを見たこと)アニメで行ってるのに、そういう残像などところに行きつちゃうって言うのが、やっぱり信用できないですよ。たぶん素人の人が作ってるんでしょって、なんでもできちゃいますから、怖いですよ。(ア-3)
漠然とした不信	
経験した訳ではないが懐疑的。	有害サイトとかって言われて子どもに見たくないものを、シャットダウンしてくれる機能だとは思ってますけど、絶対かかっ潜っていかやうだろうなみたい。(ア-4) どんな対策をとっても絶対100にはならないと思ってるので、やっぱり先方も、そのアダルト系とかを逃してくる業者さんいろいろの手を考えると、今は対処法として良いんだけど、これがまた1年2年経てくると、また他のやり方でまたいらない情報が流れてくる可能性があるから。(ウ-2)
フィルタリング機能以外のところでの抜け道が心配	
かけていても抜け道がある。	暗証番号を入れればとけるんで、私が使うときも暗証番号入れてといてるんで、子どもが暗証番号を覚えちゃえばそれまでのことだから、変えたところでまた覚えられちゃえば、それにそいたちごっこ。(ア-2) 家でそれやっても友達の家とかどこかお店やって、そういうとこで使えば意味がないかなって。(エ-1)

#### 4.4 保護者の悩みや情報源

子どものネット利用に関して、親として対処に困ることや悩み、知りたいことについて聞いたところ、親が有害だと思うサイトや有料のものがなぜいけないのか、ネット上の情報の信憑性についてどう伝えるべきか、という子どもへの伝え方の難しさが小学生グループで上がった。また、フィルタリングを外すタイミングや、親よりネットに詳しい子どもへの対処方法は子どもの年齢や性別に関わらず共

通的な悩みの方であった。また、困ったときに相談する先がわからないことや、男の子が興味を持ちやすいアダルトサイトについて、その仕組みや危険性を具体的に知っておきたいという意見も聞かれた。ネットの情報の信憑性の伝え方と、相談先がわからないという悩みは低リテラシの親から出たが、それ以外は高リテラシの親から上がった。

ネット上のリスクやトラブルに関する情報源としては、テレビのニュース、プロバイダからのメール、ネット、学校からのプリントや会合、同じ年頃の子どもを持った友達(ママ友)、子どもや夫ということで多種多様であった。

#### 4.5 調査の振り返りと知見のまとめ

本調査では、子どもの年代やネットの対策状況が類似している母親 6 名の 6 グループに 2 時間ずつ(計 12 時間)話を聞き、子どものネット利用に関する心配、ルール、対策等の実態と、その背景にある理由を探った。子どもの年代が同じ場合、ネットでの問題も共通すると考えていたが、親の使わせ方や子どもの嗜好等によって、利用内容がかなり異なるため、必ずしも年代で共通する訳ではなかった。ただ、どのグループでも保護者の懸念や、子どもとの関わり方等に共通点が見られ、参加者同士の相づちや会話の発展が見られた。参加者選定時に実施したオンラインアンケートでの回答内容について、改めて話を深く聞くと、異なる状況が明らかになる場合も多く、オンラインアンケートの回答精度に疑問を感じる場面もあった。

筆者らは、調査企画時に、家庭内のルールや対策の実施状況は、子どもの性別や年齢、保護者のネットリテラシに依存するのではないかと考えていたが、保護者のリテラシはあまり影響していないように見えた。具体的には、ネットの対策やルールがあまりない家庭の保護者のリテラシが総じて低いということではなく、教育方針や日頃の子どものコミュニケーション状況が、対策やルールに影響していると考えられる。

政府等が啓発活動に注力しているフィルタリングについても、リテラシの高い親が子どもの判断力をつけさせるために、あえて入れないことを選

択している事例もあり、必ずしも「利用＝啓発の結果」ではないことが明らかになった。また、親のリテラシが高くても、有害と言われるサイトをなぜ見ているのか等について、子どもへの伝え方に憂慮していることが明らかになり、有害サイトの詳しい仕組みや起こり得るリスクを知っておきたいという要望もあることから、初心者向けの啓発に加え、リテラシの高い保護者向けのより具体的な説明が必要とされていることもわかった。さらに、子どものネット利用に関しては、4.1 で述べたように、スマートフォン等の新たな機器の普及、新卒の危険の出現、子どもの成長などと共に保護者の心配も変化することから、継続的かつ状況に応じた啓発が重要であり、多様なチャネルでの情報提供が必要である。子どもに対しては、失敗経験が子ども自身の気づきの最も良い教材であるということもわかったため、ネット上の様々なリスクを疑似体験できるような機会も有益であると考えられる。

## 5 おわりに

本稿では、子どものネット利用に関して、保護者の懸念や心配、ルール、対策、悩み等の実態と、その背景にある理由や思いを探る質的調査の結果を考察した。その結果、家庭内のネット利用の対策やルールの有無は、保護者のリテラシより、教育方針や家庭内のコミュニケーション状況と関連していることや、高リテラシ層向けの具体的な詳細な啓発活動が必要なこと等を明らかにした。

## 参考文献

- [1] 千葉直子, 高橋克巳: インターネット上の有害情報対策に関する利用者視点に基づく考察, 情報処理学会論文誌, Vol.51, No.9, pp.1702-1710 (2010)
- [2] 内閣府: 青少年のインターネット利用環境実態調査(H23/10), 入手先<<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h23/net-jittai/pdf-index.html>><参照 2012-08-20>
- [3] 文部科学省: 子どもの携帯電話等の利用に関する調査(H21/05), 入手先<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/05/attach/1266542.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/05/attach/1266542.htm)><参照 2012-08-20>
- [4] S.ヴォーン他(著), 井下理(監訳): グループ・インタビューの技法, pp7,20,31, 慶応義塾大学出版会 (1999)